

中国料理の利用状況について

昭和女大生活 小田きく子

目的：日本人は日本料理以外、世界各国の料理を日常的に食している。最近では料理の素や冷凍食品の普及により、家庭でも簡単にこれらを用いて料理できるようになった。その中でも中国料理の日本における発達は古く、料理店も多く、日常的にも家庭で食されている。そこで、どの様な形態で中国料理を利用しているかアンケートによりその実態を調査した。

方法：17才から28才までの男女大学生及び大学院生 800名を対象にアンケート用紙を配布し、男女別・家族構成別に中国料理に対する意識及び利用について調査した。

結果：アンケート回収は 599名、回収率 74.8%であった。その結果、(1)中国料理のイメージでは、男女共に「油っこい」が1位で28.6%であった。2位は「材料の種類が多い」で14.2%、次いで「調味料の種類が豊富」13.4%と、調理法や材料をイメージしたものが多かった。また、(2)中国料理は好きか嫌いかにについては、男女共に「大好き」が29.4%、「好き」46.1%、「ふつう」22.2%であった。「嫌い」「大嫌い」は合わせてわずか14名で全体の 2.4%であった。さらに、(3)中国料理の喫食状況では「月に3～4回」が男女共最も多く全体の36.2%、次いで「月1～2回」が29.7%で、家族構成からみると、家族と共に暮している者、1人暮らしの者とも「月3～4回」が30%以上おり、寮生活者では寮の給食メニューとして中国料理が「月1～2回」出るため、この値が38.9%と1位であった。これらの喫食場所としては、男女共「自宅で食べる」が49.5%、「外で食べる」が28.9%と、圧倒的に自宅で食べる方が多かった。